

富士山を知る事典

富士学会 企画 渡邊定元・佐野充 編

A5・620頁 定価8,800円(本体8,381円) ISBN978-4-8169-2166-7 2012年5月刊行



9784816921667

自然・歴史・文化など 各分野の専門家が詳説！

- 世界に知られる日本のシンボル・富士山を知る「読む事典」です。火山、動植物、文学、信仰、芸術、地理、防災、観光、環境保全など、各分野の専門家がわかりやすく解説。富士山について多角的・総合的に理解することができます。
- 詳細な解説70項目のほか、車両の「富士山ナンバー」など興味深いコラム30項目を収録。
- 文化財、登山道、ダイヤモンド富士など、カラー写真をふくむ図版を多数掲載。
- 巻末に、最近の話題を紹介する「富士山キーワード」、文献・Webの「参考資料一覧」、「索引」付き。
- 世界文化遺産への推薦書が提出され、世界的な関心が高まる富士山を知る最適の1冊です。

■ 構成 ■

〈序〉

『富士山を知る事典』の発刊にあたって(富士学会会長 吉田 榮夫)
日本の至宝—富士山 (中曽根 康弘)

第1章 富士山の自然

富士山の地形(火山としての富士山、富士山麓の風穴・氷穴…)
富士山の動植物(青木ヶ原樹林、富士山の動物…)
富士山の水(富士山の湧水、富士山周辺の河川…)

第2章 富士山の文化

富士山と文学(古典に見る富士山の噴火、富士山北麓の富士山民話…)
富士山信仰(富士山と浅間信仰、江戸の富士講…)
富士山と芸術(絵画に描かれた富士、富士山の写真と撮影スポット…)
見立て富士(日本全国の見立て富士、世界の見立て富士…)

第3章 富士山の地理とまちづくり

富士山の地理(富士山の可視域—4000万人が見る山…)
富士山の防災(宝永噴火と暮らし、富士山のライブカメラ…)
富士山を活かした地域づくり(「富士山の日」と「ふじのくに」…)

第4章 富士登山と観光

富士山と交通(富士山と鉄道、富士山の道路整備と環境対策…)
富士登山(村山古道の歴史と保全、富士登山道の施設…)
富士山の観光開発と環境保全(富士山の環境保全、富士山の世界遺産登録運動…)

第5章 富士山と日本

日本の風景・富士山(日本の風景像、富士山の文化的景観と文明的景観…)

○富士山キーワード

○参考資料(文献・Web案内)

○索引(編集部)

あとがき(富士学会副会長 渡邊 定元)

富士学会 ふじがっかい

富士山に関わる学際的研究を進める初の専門学会として2002年に設立された。自然科学、人文・社会科学、文学・芸術の各分野の研究者が集まり、従来の枠を超えた富士学(Fujiology)の確立を目指し、研究発表、学会誌「富士学研究」発行などの活動を行っている。



紀伊國屋書店

富士山の環境保全

渡邊 定元

1. 富士山域の環境の劣化

第二次大戦後の十年間、富士山の山地帯以上の自然環境はよく保全されていた。表口、吉田口ともに富士山に登る人も少なく、物資が乏しかったためか紙くずも落ちていなかった。あるのは砂走りにみられた草鞋の切れ端ぐらいであった。昭和25年（1950）に調査した御中道の御庭のカラマツ・ハクサンシャクナゲ・ハナゴケ群落や、桜沢から市兵衛にかけての高山植物群落は美しく、富士山の森林限界や高山帯の特徴をよく表していた。

富士山自然環境の劣化が始まったのは昭和30年代の高度成長が始まってからである。昭和35年（1960）の富士スバルライン、昭和45年（1970）の富士山スカイラインの開通によって、5合目以上の登山道はゴミの道と化していった。富士登山

度成長期の負の遺産である。行政が積極的に美化運動に取り組まなかったこともその一因である。

高山地帯、亜高山帯域の自然林の劣化は、拡大造林やスバルライン建設に伴い顕在化する。制限林以外の多くの天然林は人工林へと転換された。リゾート開発は自然公園法や森林法など法による制限の範囲で計画され許可されるが、富士山麓は東名高速道路、中央自動車道の開通に伴い首都圏に最も時間距離の近いリゾート地として、法の許す範囲内まで開発が行われた。

2. 富士山の環境の主体とは

環境という言葉が一人歩きしている。人間活動の影響は地球上の隅々まで行きわたった結果、温暖化、オゾンホール、酸性雨などの自然現象

- 富士山の自然・歴史・文化などそれぞれの方面から、項目を設け、専門家が分かりやすく詳説。
- 「参考文献」も明記した。

Column

富士登山競走と富士登山駅伝

—日本一高いところで開催される大会—

日本一高いところで開催される大会。それは「富士登山競走」と「富士登山駅伝（正式名称は富士登山駅伝競走大会）」である。どちらとも日本一標高の高い富士山頂を目指して登山競走する大会だ。競走とはいっても普通に登山をするのではなく、みな全力で走って競走する。標高2,000mを超えたと一気に酸素が薄くなり、歩いていても息苦しくなるのに、そこを走って競争するのだ。この日本一高いところで開催される富士登山競走と富士登山駅伝。似ているようだが、実際には全く違う大会なのだ。

富士登山競走は、山梨県富士吉田市が主催し、昭和23年（1948）から開催されている、平成20年（2008）で61回を迎えた歴史ある大会である。毎年7月下旬に開催され、標高770mの富士吉田市役所をスタートし、吉田口登山口を通り山頂までの約21kmを走破する「山頂コース」と五合目までの15kmを走破する「5合目コース」の2コースで競走が行われる。山頂コースの完走率が

- 随所に、富士山に関する興味深いテーマのコラムを配置

好評既刊

●沖縄人（ウチナンチュ）の語る沖縄の過去・現在・未来

沖縄を知る事典

「沖縄を知る事典」編集委員会 編

A5・520頁 定価8,925円（本体8,500円） ISBN978-4-8169-1605-2（旧ISBN4-8169-1605-9） 2000.5刊

●沖縄の過去・現在・未来を、より深く考える

沖縄を深く知る事典

「沖縄を知る事典」編集委員会 編

A5・510頁 定価8,925円（本体8,500円） ISBN978-4-8169-1756-1（旧ISBN4-8169-1756-X） 2003.2刊

地域学を“知る事典”
併せてご利用ください！